同時進行ルポ ●1271●

大リストラ時代を生きる！

大手電機メーカーを早期退職

40代半ばでホームページを仕事の場にしようと…

ある程度の年齢になると、管理職への昇進が身近な話題になる。しかし「昇進なんかしなくていいから、いつまでも現場の第一線で働きたい」と望む人も多い。とりわけ技術者に、その傾向が強いようだ。

大手電機メーカーのグループ会社で、通信機器の回路やシステムを設計していた柴田健太郎さん(四七)も、その一人だった。三十代の後半に管理職へ昇進してからは、好きな設計の仕事ができなくて不満だったのだ。

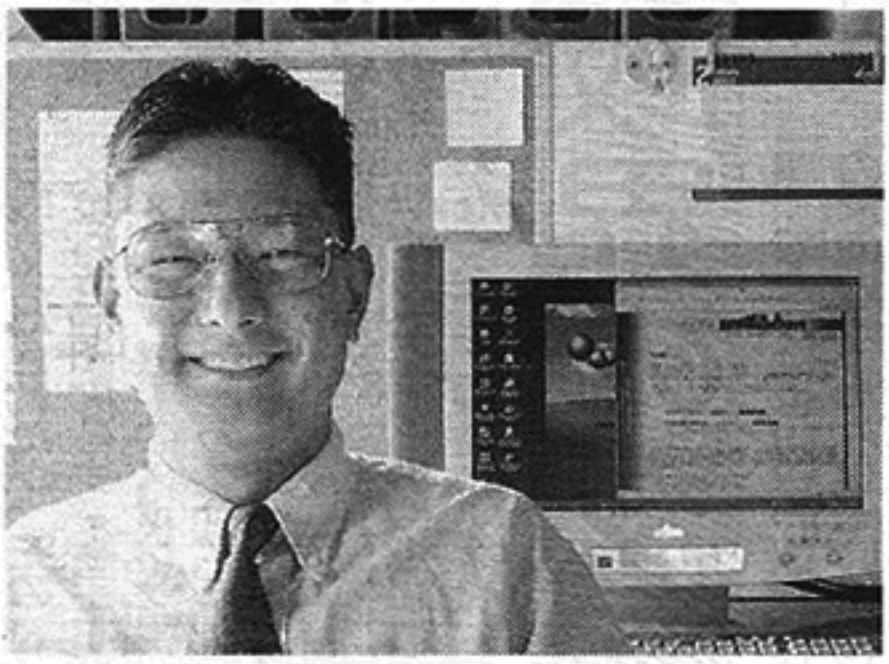
「家にいる時も、顔つきが暗くなった」と妻にも言われていたという。

定年までは我慢して、退職してから自分の好きなことをやるという選択肢もある。だが柴田さんには「定年後、新たに何かを始めるのでは大変そうだ」という思いもあった。新しいことを始めるのなら、なるべく若いうちがいい。そう考えて柴田さんは、会社がリストラ策として打ち出した早期退職制度を利用する決意を固めたのだ。

柴田さんが退職したのは、一昨年の三月。

「次に何の仕事をするかは未定でしたが、二度と宮仕えはすまいと心に誓いました。独立するなら、これからはインターネット抜きには考えられません。何の仕事であれ自分のホームページで宣伝や受注をすることになります。まず、ホームページの制作を覚えようと考えました」

さっそく



効果的なページ作りに会社勤めの経験が役立つ

六月から七月にかけての五週間、マルチメディアスクールでホームページ制作を勉強。技術屋だったので、めきめきと腕を上げた。若い頃には美術系の大学へ進むことも考えたほどで、デザインに対する素質もあったようだ。そして「仕事のために自分のホームページを作るだけでなく、ホームページの制作自体を仕事にしよう」と考えるに至った。

昨年の三月には、ホームページの制作などを請け負う「工房Shiba ken」を設立。開業のための資金はスクールの受講料など、全部で七十万円ほどで済んだ。

設立前の準備期間を含めて、昨年末までに八件のホームページ制作に携わった。

「この仕事は、ただホームページを作る能力だけあればいいわけではない。効果的なページ作りのためには、それぞれの企業などの仕事の内容を深く理解する必要があり、そのためには社会での経験が大切です」

「お客さまとの打ち合わせには、以前の会社勤めで培ったプレゼンテーションの能力なども役立ちました。ホームページのデザイナーには若い人が多いが、彼らにはできないことが自分にはできると自負しています」

昨年の年商は九十万円ほどで、会社員時代の年収と比べれば微々たるものだ。

しかし開業資金の七十万円は、すでに回収したことになる。開業一年目としては、むしろ上出来と言えるだろう。

「いろいろな分野に手を広げたい」と積極的

「将来は、さまざまな分野に手を広げたいと思っています。ホームページの制作を通じて、いろいろな業種の世界を知ることができるのは、とても参考になります」

柴田さんは、今後の事業の拡張にも積極的だ。

（後藤 渉）

《メモ》

工房ShibakenのURLは、www.kobou—shibaken.com。

ホームページ制作のサンプルとして見てもらえるよう、動きのある面白いサイトになっている。もちろん、動きなどのない落ちついたホームページを作ることも可能だ。